

有機農業・

オーガニックの世界



安全で安心であるだけでなく、地球環境にもやさしい有機農業。SDGsや環境問題への関心が高まる今、再び注目を集めている。

実は、北海道は有機JAS認証面積が全国1位の有機農業大国だ。

有機農業に取り組む生産者にもその取り組みの実際についてうかがった。

01 「日本一のかぼちゃ」に必要なのが、有機栽培だった

森町
みよい農園
明井清治さん

最近、スーパーの店頭で、果物やトマトなどの糖度表記を見かけるようになった。数値が高いほど甘いということのだが、道南の森町に糖度20度を超えるかぼちゃがあるという。果物を超える甘みたっぷりで濃厚な味わいのかぼちゃとは、一体どうなのか…。その正体を探して、道南の秀峰・駒ヶ岳のすそ野に広がる『みよい農園』を訪れた。

糖度20度を超えるかぼちゃ「有機栽培南瓜くりりん」は、「黄金のかぼちゃ」の名前で、主に道外に出荷されている。駒ヶ岳の火山灰という、あまり農業適地とはいえない土壌で、しかも有機栽培によって生産されているというから、何重にも驚かされた。

20歳の誕生日に、父からかぼちゃ



confa [コンファ]

「confa」はConsumer(消費者=道民)とFarmer(農業者)のConsensus(合意)から名付けたもので、「消費者と農業者がもっとふれあえるように」「都市と農村をつなぐ架け橋になりたい」という想いを込めています。

農にまつわる情報を発信中!
confa公式アカウント

Facebook Instagram
@confa.hokkaido

電子ブック公開中!
Hokkaido ebooks

QRコードをCHECK ▶

※スマートフォン、タブレットの方は専用アプリ(無料)をダウンロードのうえ、ご利用ください。

<http://www.hokkaido-ebooks.jp>

※QRコードは(株)デンソーウェアの登録商標です。

「目次」

- 01 「特集」有機農業・オーガニックの世界
- 07 キラリ★農業系高校
- 09 ふれあいファームへようこそ
- 13 農のある暮らし
- 15 コンファ農業教室
- 17 道産食材の極上レシピ
- 18 北海道からのお知らせ
- 19 教えて!もっとおいしく食べるコツ

畑を受け継いだ明井さんは、「真っ先に考えたのは付加価値の高いかぼちゃ作り。そして農業や化学肥料を使わない有機農法にこだわりました。『日本一のかぼちゃを作りたい』という思いだけで、ここまで続けてきました」と熱く語る。

自らの畑を「オーガニック農場」と呼ぶ。日本では「有機JAS認証」制度のもと「堆肥などで土づくりを行い、化学肥料や農薬の使用を基本に栽培した農産物」として認証されたもののみが「有機」「オーガニック」と表示できる。みよい農園では2007年に有機JAS認証を取得した。

さて、かぼちゃ一筋45年、明井さんの有機栽培とは?

「最初からかぼちゃに糖度を求めていたわけではありませんでした。有機栽培と向き合い、試行錯誤を重ねた結果として得られた成果だったんです」

始めた当時は有機農業の情報も今ほど多くはなかった。自分の目指す農業にマッチする、納得のいく農法を求めて、ひたすら人に話を聞いて回った。

「土づくりが基本と言われても、その土づくりを知りたいのに…。誰も明確に教えてくれはしなかったよ」

※ P15「confa農業教室」参照。